

阿部会頭挨拶（要約）

本日は恵那商工会議所第138回通常議員総会にご出席いただき誠にありがとうございます。

本日こちらへ伺う前に、グランドホテルの解体状況を見てまいりました。あと1か月ほどで解体が完了し、更地になる予定とのことです。一昨年1月にグランドホテルが破綻した際、「この場所を廃墟のような状態にしてはいけない」という思いから、さまざまな要望を行ってまいりました。その後、旧パナホーム（現パナソニックホームズ）が買い取られましたが、今後の具体的な活用についてはまだ明確ではありません。ただ、いずれにしても、あの場所が放置されることなく前に進んでいることを、大変うれしく思っております。

かつて恵那にはグランドホテルと国際ホテルという2つの大きな施設があり、いずれも約250名規模の会場を備えていました。結婚式や企業の会合など、多くの催しが開催され、恵那は一種のコンベンション機能を持つまちであったと言えます。

現在、その機能を再び強化しようという動きがあります。近隣施設の活用や再編を含め、コンベンションシティとしての再構築を検討しており、ここ1年ほどで方向性が明確になる見込みです。展示会やイベントなど、多様な用途に対応できる施設を目指してまいります。

また、桜の季節を迎え、恵那峡は現在、五分咲きといった状況です。桜まつりも間近に控え、すでにライトアップも始まっております。夜桜は大変美しいですので、ぜひ足を運んでいただければと思います。

さて、地域経済についてですが、人口減少は避けられない現実です。このまま何も手を打たなければ、衰退していく一方です。今後は、積極的に挑戦する地域と、そうでない地域との差が明確になってくるでしょう。ただし、やみくもに進むのではなく、しっかりと見極めたうえで挑戦していく姿勢が重要です。

その際に大切なのは、「まち全体を一つの組織として捉える」という考え方です。行政、商工会議所、商工会などが同じ方向を向き、ベクトルを合わせて取り組むことが重要です。恵那には、イベントや事業の際に自然とまとまる力があり、これは大きな強みであり、他地域に対するアドバンテージだと感じています。また、組織において役職は名誉職ではなく、責任ある実務の役割です。企業であれば、社長が最も働く存在であるように、行政や各団体においても、リーダー自らが率先して動くことが必要です。そのような姿勢があつてこそ、強い組織、強いまちが形成されます。

その成果の一つが、企業版ふるさと納税の取り組みです。恵那市、商工会議所、商工会が連携し、今年度は25件・約1億2,000万円の寄附を集めることができました。昨年度と比較して大きく伸びており、これは関係者の積極的な行動の成果です。行動すれば結果につながるという好例であり、今後もさらに広げていきたいと考えております。

さらに、新たな動きとして、山岡地区に約4.7ヘクタールの飛行場整備が進んでおります。これにより、防災や人材育成、観光などさまざまな分野での活用が期待されています。今後は防災協定の締結も予定されており、新たなビジネスチャンスの創出にもつながると考えています。

加えて、ロケツーリズムの推進にも取り組んでおります。これまで恵那はドラマや映画の舞台となる機会がありながら、受け入れ体制が十分ではありませんでした。現在はその体制整備を進めており、今後の作品誘致や交流人口の増加につなげていきたいと考えております。

人口減少が進む中にあつても、交流人口の拡大を図ることで地域経済を支えていくことが重要です。本年をその転機の年とし、さまざまな取り組みを進めてまいります。

結びにあたり、今後とも皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。